

…はなの村の四季…

## 魔よけのヒイラギ(柊)の木

小 関 栄

この付近の家の庭先には縁起ものとしてヒイラギの木が珍重されて多い。この木にまつわる当地の昔の風習がある。

節分の日に庭先からヒイラギの枝を折ってきて、鯛(いわい)の頭を刺して家の戸口に魔よけとして置く。その夜はヒイラギの葉と葱(ねぎ)と鯛をまな板の上で混ぜて磨り潰し、捏(こ)ねながら呪文(じゅもん)を唱えて、家族揃って健やかに育つおまじないをする。また、ヒイラギの木で作った箸で雑煮を食べる。何れも鬼も来ない魔よけであり、健康と長寿を祈願する細やかな家庭行事であったが、昭和二十年の終戦の頃からは殆ど見られなくなってしまった。

ヒイラギには尖(とが)った刺状の鋸葉があって触ると痛い。だから古くは「ひひら(疼)くの木」と云っていた。疼はうずくであり痛むの俗語である。漢名は柊樹(しゅうじゅ)と云い、ヒイラギの漢字はこの「柊」だ。

ヒイラギの木はモクセイ科の低木の常緑樹。寒さに強いし公害にも強くどこでも育ち、さし芽、根、実でどんどん殖える精力的な木。この花は寒くなる十一月半ばには小さな白い花をつけ、春先に紫黒色の実になる。地味な木で、葉の刺は犬や猫も避けて通るから何時の間にか魔よけの木になった。欧米でもセイヨウヒイラギは魔よけの木として家の玄関先で育てられていると云う。

(写真のヒイラギの木は、花言葉「歓迎」どおり、我が家の玄関先の庭にあるもの。24.1.17.撮影と記)



刺の葉の 魔よけヒイラギ 門に立つ 淡水

### 私の近況二題

緑肥作りに挑戦

倉馬の里 前田 由美子

毎年1月、2月は春野菜の準備のため過酷な天地返しをやっておりますが、去年12月に野田さんから緑肥がいいよと教えてもらい、12月13日、少し時期が遅かったのですが、低温条件下でも発芽しやすく生育も旺盛な早生ライ麦の種を蒔きました。今冬は雨が少なく芽が出るのかなと心配しておりましたが、1月19日にはまばらながらかわいい芽が出ており、本当によかったです。毎年同じ畑で同じ作物を作っているのに、**線虫防除に！ 連作障害対策に！ 土作りに！**植物のパワーを借りて環境にやさしい野菜作りに挑戦します。

新東名 花暦の会

地区の皆さんの要望で、5年前に私達が住んでる所より奥に「新東名入口」というバス停が出来ました。バス停とバスがUターンできる様にと地元の方が約100坪の土地を提供されました。周りには**どうだんつじ**が植えてありましたが、3年前に倉馬よりカンナの球根をもらい植えました。思うように手入れができず気になっておりましたところ、地元の方々が発起人となって『新東名入口バス停の美化の推進、花や木々を育て、倉馬の自然と調和したやすらぎのミニ公園にする』という目的で静岡県グリーンバンク緑化グループ支援事業の対策として「新東名 花暦の会」を平成23年1月21日に立ち上げられました。私達も少しは協力できるのではと思ひ会員になりました。



写真は新東名入口バス停付近の風景